津波対策ゲート

リンクアップゲート

流起式可動防波堤

株式会社 丸島アクアシステム

marsima

丸島の津波対策ゲート 港湾・防波堤・防潮堤・河川に

横引きゲート

31

横引きゲート

ローラゲート

マイタゲート

マイタゲート

ローラゲート

新型フラップゲート

新型フラップゲート (騒音低減型)

リンクアップゲート

リンクアップゲート (バランスウェイト型フラップゲート)

流起式可動防波堤

流起式可動防波堤

- 現場操作員の安全最優先
- 自動化／遠隔操作で安全迅速確実閉鎖
- 維持管理容易

丸島のリンクアップゲート

バランスウエイト型フラップゲート

リンクアップゲートの特徴

①内水排除時、内水が低い時でも排水は可能。

②逆流時、外水位が低い時でも全閉が可能。

リンクアップゲート(模型写真1/2)

リンクアップゲート(模型写真2/2)

無水時の扉の開き比較

リンクアップゲート

隙間: 14mm

従来ゲート

隙間: 上5mm、下23mm
(約9°)

幅: 2.3m × 高: 1.6m × 2門

幅: 2.3m × 高: 1.6m × 2門

津波対策用 流起式可動防波堤

(Hydroplane Tsunami Barrier)

平常時
【海底に倒伏】

津波襲来時
【水面上に起立】

引き波発生時
【逆方向に起立】

流起式可動防波堤の特長

- 津波によって**無動力(津波の流れ)**で水面上に起立します。
- 扉体は固定ベルトで確実に支持されます。
- 扉体は**引き波時にも起立**し、湾内の船舶や財産等の流出を防ぎます。
- 津波がおさまると元どおり海底に沈み、船の往来が可能となります。
- 固定ベルトは高強度ゴム引布製で、**衝撃力をダンパー効果で吸収**します。
- 機械的な回転軸がなく、**地盤変形に追従**し起立性能に影響しません。

流起式可動防波堤の公開実験

- 海上・港湾・航空技術研究所、京都大学防災研究所、大阪工業大学、沿岸技術研究センター、ニュージェック、みらい建設工業と共に可動防波堤の共同研究を進めています。
- 2014年7月16日に京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーにおいて、公開実験が行われました。
- 実験では、鋼製の扉体が瞬時に立ち上がり、津波の衝撃を受け止める様子が確認されました。
- 公開実験では多数の報道機関の方々にご覧いただくことができ、新聞やテレビで大々的に取り上げられました。

流起式可動防波堤の公開実験

流起式可動防波堤の実験映像

【1/50模型】 【レベル2】 【スロー】

流起式可動防波堤の実験映像

【1/50模型】 【レベル2 引き波】 【スロー】

流起式可動防波堤大規模実験

【港湾空港技術研究所：神奈川県横須賀市（久里浜）】

【大規模波動地盤総合水路】

実験期間：2015年
10月14日～11月13日

【水路幅：3.5m × 水路高：8m × 水路全長：184m】

流起式可動防波堤大規模実験状況

動作説明図

可動防波堤の比較

垂直浮上式

フラップゲート式

流起式